

## メッセージアウトライン

### ヤコブの手紙 4:1~5「聞かれない願い」

[1]「何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか」

ここでヤコブは人間の世界に存在する争いの原因をはっきりと指摘している。その原因は「あなたがたのからだの中で戦う欲望」であると言う。いろいろな欲望が私たちのからだの中でうず巻いて、それが互いにぶつかり合うのである。その欲望は自分の中だけではとどめておくことはできず、人間どおしの争いにまで発展する。欲望の本質は自分の快楽を追求する思いであり、生まれながらの肉の欲であり、それは罪を生み出す。→ヤコブ 1:15

この世にある限り、私たちは肉の欲との戦いがある。→ローマ 7:18 しかし、私たちが、ただ神の恵みにより頼み、聖霊によって肉に打ち勝っていく時に肉の欲望、肉の働き、その支配力、影響力から自由になっていくことができる。→ローマ 8:8~9、ガラテヤ 5:16

[2-3]「あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをします。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりします。あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。願っても受けられないのは、自分の快楽のために使おうとして、悪い動機で願うからです」

創世記4章には人類最初の殺人事件が記されている。神によって最初に造られた人間アダムとエバにはカインとアベルという二人の息子が生まれた。彼らが成長したとき、兄のカインと弟のアベルはそれぞれ神へのささげ物を持って来た。神は誠実な弟のアベルとそのささげ物に目を留められ、兄のカインとそのささげ物には目を留められなかった。それでカインはひどく怒り、アベルを野に連れ出して殺してしまった。このことが起こった原因はカインがアベルをねたみ、うらやんだことから始まった。ねたみ、うらやみ、嫉妬、敵意等の行き着くところは殺人となる。またそれは争いや戦いを引き起こす。

カインの時代より今日まで神をないがしろにしてきた人間のたどる道はいつも同じである。

ヤコブはこのような人間の状態を述べた後に、あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからであり、願っても受け入れられないのは自分の快楽ためという悪い動機で願うからだと言う。この願いとはもちろん、神に対する願いのことである。

[4]「貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです」

旧約の預言者たちは神にそむく不信仰のイスラエルを姦淫の女にたとえた。同じようにヤコブは自分の快楽のために使おうとして神に願い求める者は姦淫の女であり、貞操のない者だと言っているのである。世を愛することは神に敵することである。その邪悪さのため神が滅ぼそうとされていたソドムとゴモラ

の町から逃げる途中、ロトの妻は残して来た財産が気になって警告されていたにもかかわらず、後ろを振り返った時、神のさばきによって塩の柱になってしまった。→創世記 19:26 これは神よりもこの世を愛する者に対する警告である。

[5]「それとも、『神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる』という聖書のことばが、無意味だと思いませんか」

ヤコブがここで引用したことばはそのままの形では聖書にはないが、旧約聖書の思想を要約して書いたのかもしれない。神がねたみの神であるというのは旧約聖書の一貫した主張である。→出 20:5 これは他人の成功や卓越した地位をねたむというのではなく、神はご自身の所有する栄光と被造物に対する主権とを、他の偽りの神々に与えることをねたみ、憎まれるということである。

さらにここでヤコブは神が私たちのうちに住ませた御霊をねたむほどに慕っていると言う。イエス・キリストを自分の救い主と信じた者は御霊がその人のうちに住んでくださると約束されている。→I コリント 6:19 神がこのようにして私たちを愛してくださっているのに、私たちが神よりもこの世を愛しているならば、神はどれほど悲しまれるだろうか。私たちはこのことをよく考えるべきであり、また、神の敵となってしまっはいけない。

この世を愛し、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で神に願っても聞かれることはない。そうではなく、私たちを愛し、私たち以上に私たちのことをご存じである神に心から従い、神のみこころにかなう願いをささげていく者となっていくことが大切である。

→マタイ 6:24~34,7:7~11